

Doc. 3513 - C

Evid.

Folder 1

(291)

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

EVIDENTIARY DOCUMENT NUMBER 3513-C

TITLE: KOBUN RUI SHU (Collection of Official Documents) Foreign
Affairs 3, International 3, Year 1943.

SOURCE: Cabinet Secretariat

MICROFILMING

Document 3513-C Source: Cabinet Secretariat
has been microfilmed on Oct 28 1948 for
permanent historical record.

(None) (Part) of this document had been extracted for court use.

F. MATTISON
Files Unit
Document Division

Documents of these three items
cannot be found in the given
bound-volumes.

T. R. T.

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 3513 -.C

Date: 23 September 1947

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: KOBUN RUI SHU (Collection of Official Documents) Foreign Affairs 3, International 3, Year 1943.

Date: 1943 Original (x) Copy () Language: Japanese

Has it been translated? Yes () No (X)

LOCATION OF ORIGINAL

Document Division

SOURCE OF ORIGINAL:

Cabinet Secretariat

PERSONS IMPLICATED:

TOJO, Hideki; SHIGEMITSU, Mamoru; ANDO, Kisaburo; KAYA, Okinori; SHIMADA, Shigetaro; IWAMURA, Michiyo; OKABE, Nakakage; INO, Hiroya; HATTA, Yoshiaki; KOIZUMI, Chikahiko; AOKI, Kazuo; KISHI, Nobusuke; OASA, Tadao; GOTO, Fumio.

CRIMES OR PHASE TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE:

Cabinet decisions relative to Greater East Asia War

SUMMARY OF RELEVANT POINTS:

Contains numerous cabinet decisions, some of which are as follows:

Item 1. Decision on the Ratification of the Treaty of Alliance between Japan and the Philippines, 20 October 1943.

The treaty stipulated close economic, political, and military cooperation between Japan and the Philippines.

Doc. No. 3513 - C

Page 1.

Doc. No. 3513 - C - Summary Cont'd.

Item 6; Draft of Japanese Government's Announcement on the Chinese Republic's Declaration of War against America and Britain, 8 January 1943.

In this announcement, Japan gives up her extraterritoriality in China and voices her determination to cooperate with new China in defeating America and Britain, their inveterate enemies.

Item 10. Decision on matters concerning cooperation and assistance with regard to the Manchukuo Emergency Farm Land Creation Plan, 22 November 1943.

Reclamation of land for paddy fields and farms amounting to 149,881 Chinese acres is to be achieved during 1944 - 1945 in order to attain self-sufficiency in staple foodstuffs throughout Japan and Manchukuo.

Analyst: 1st Lt. Fred F. Suzukawa

Doc. No. 3513-C
Page 2.

1931 Dec No. 3573-C
昭和十六年

外專門三

國際三

通商雜載

公文類聚

3513-①

上奏	上奏	上奏	一條二約	一條三約
一在「フィリピン」國帝國大使館外設方	一日本國「フィリピン」國間同盟條約御批 准ノ件ヲ定ム	一日本國「フィリピン」國間同盟條約及附屬 了解事項ヲ公布ス	一日本國中華民國間同盟條約締結及 關係公文交換ノ件ヲ定ム	一日本國中華民國間同盟條約及附屬文 書公布ス
一〇、六	一〇、二〇	一〇、二一	一〇、二三	一〇、三一
指令	指令	公布	指令	公布

外事門 三止
國際 三止

一 二 三 四 五

~~外務省~~

通商 雜載

閣議

一 中華民國國民政府、米英兩國へ、戰宣
ニ伴、帝國政府聲明案

一、八

決定

六

上奏

一 「プレスロウ」ニ帝國名譽領事館ヲ設置ス

五、二

指令

七

閣議

一 「ヒルマ」國獨立ニ關スル帝國政府聲明案

七、三〇

決定

八

閣議

一 泰國外務大臣來朝ニ付政府ノ賓客トシテ待遇ノ件ヲ定ム

七、三〇

指令

九

閣議

一 滿洲國緊急農地造成計畫ニ對スル協力援助ニ關スル件ヲ定ム

一一、三三

指令

一〇

二月六日帝國政府

濟



「フィリピン」國ニ帝國大使館設置

ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十八年十月六日

内閣總理大臣東條英機



一井

東亞
甲 第一四〇號

起案
昭和十八年十月六日

閣議決定
昭和十八年十月六日施行
昭和三十八年十月六日
指令

內閣總理大臣

內閣書記官長

內閣書記官

外務大臣

海軍大臣

商工大臣

大東亞大臣

內務大臣

司法大臣

遞信大臣

鈴木國務大臣

大藏大臣

文部大臣

鐵道大臣

大藏國務大臣

陸軍大臣

農林大臣

厚生大臣

陸軍國務大臣

「フィリピン」國ニ帝國大使館設置

(Faint background text and official seals)

件
國ニ帝國大使館設置

右樞密院ノ御諮詢ヲ經テ御下付
ニ付同院上奏ノ通裁可ヲ奏請セ
ラレ然ルベシト認ム

指令案

在コフィリピン^ル國帝國大使館新設
方上奏ノ件上奏ノ通裁可ヲ經
リ

臣等「フィリピ」國ニ帝國大使館設置ノ件
諮詢ノ命ヲ恪ミ本月六日ヲ以テ審議ヲ盡
シ之ヲ可決セリ乃チ謹テ上奏シ更ニ
聖明ノ採擇ヲ仰ク

昭和十八年十月六日

樞密院議長臣 原 嘉道

「フィリピン」國ニ帝國大使館ヲ新設ス

1001
187
112

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ上奏案ノ通
閣議決定裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

追テ本件ハ樞密院官制第六條第十
一號ニ依リ樞密院ニ御諮詢相成可
然ト認ム

指令案

在「フィリピン」國帝國大使館新設
方上奏ノ件上奏ノ通裁可ヲ經タリ

東重甲一四〇

御覽濟内閣へ御下付

昭和十八年十月一日御下付

昭和十八年十月一日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

海軍大臣

商工大臣

大東亞大臣

内務大臣

司法大臣

逓信大臣

陸軍大臣

大藏大臣

文部大臣

鐵道大臣

大藏國務大臣

陸軍大臣

農林大臣

厚生大臣

後藤國務大臣

別紙外務大東亞兩大臣上奏在フイリピン
國帝國大使館新設方上奏ノ件

去 刑 司

法制局令第三一六號

昭和十八年十月一日

官文第二一三七號

法制局

在「フィリピン」國帝國大使館新設方

上奏ノ件

在「フィリピン」國帝國大使館設置方ニ關シ別紙ノ通上奏仕候間可
然御取計相成度説明書相添へ此段申進候也

昭和十八年九月三十日

外務大臣 重光



140

大東亞省

大東亞大臣 青木一男



內閣總理大臣 東條英機 殿

上奏書用紙

規格 B-4 (東東2102)

IMT 676

12

「フィリピン」國ニ帝國大使館ヲ新設ス

在「フィリピン」國帝國大使館設置ニ關シ別紙ノ通措置致度候ニ付
右御裁可アラセラレ候様仕度此段

謹テ奏ス

昭和十八年九月 日

外務大臣 重光



大東亞大臣 青木 一 男



說 明 書

茲ニ大日本帝國ヲ中核トスル大東亞共榮圈ノ一環トシテ道義ニ基ク新
「フイリピン」國ノ建設ヲ見ントスルニ至レル處同國ハ人口約一千五
百萬面積約十一萬四千平方哩餘獨立國家トシテハ必ズシモ大ナリトハ
稱シ難キモ農、林、鑛ノ諸資源ニ富ミ帝國ノ之ニ期待スルモノ甚ダ多
ク且地理上ハ大東亞共榮圈ノ中樞ニ位スルノ要衝タリ殊ニ共榮圈ノ一
環タル獨立國トシテ其ノ帝國トノ關係ハ大東亞戰爭完遂ノ爲有ラユル
協力ヲ爲シ又共同ノ建設ニ付緊密ニ協力スベキ關係ニ在リ又南方諸地
域中在留邦人數ノ最モ多キ地域ナリ
依テ帝國ハ同國承認後之ト正常ナル外交關係ヲ設定スルト共ニ上述ノ

如ク其ノ衝ニ當ルベキ外交官ノ任務ノ重大ナルニ鑑ミ之ニ大使ヲ常駐
セシメントス

現在帝國ハ大東亞共榮圈内獨立國ニ對シテハ總テ大使ヲ派遣シツツア
リ此ノ點ヨリ觀ルモ「フィリピン」國ニ派遣スル外交官ハ之ヲ大使ト
爲スヲ相當ト信ズ

今ヤ大東亞戰爭ハ益々、苛烈ナル様相ヲ呈シツツアリ帝國ハ大東亞
諸國家諸民族ノ總力ヲ結集シテ有ラユル困難ヲ打破シ以テ征戰ノ目的
達成ニ邁進セザルベカラズ帝國ガ「フィリピン」ノ獨立ヲ承認スルモ
其ノ目的ハ正ニ懸リテ此ノ一點ニ在リ依テ此ノ際獨立スル「フィリピ
ン」國ニハ帝國ノ大使ヲ駐劄セシメ緊迫セル情勢下帝國ノ對比施策ニ

遺憾ナキヲ期セントス

大東臣旨

「フィリピン」國ニ帝國大使館設置ノ件
右別紙ノ通本院ニ於テ決議上奏候條此段
及通牒候也

昭和十八年十月六日

樞密院議長原嘉道

内閣總理大臣東條英機殿

臣等「フィリピン」國ニ帝國大使館設置ノ件
諮詢ノ命ヲ恪シ本月六日ヲ以テ審議ヲ
盡シ之ヲ可決セリ乃チ謹テ上奏シ更ニ
聖明ノ採擇ヲ仰ク

昭和十八年十月六日

樞密院議長臣原嘉道

「フィリピン」國ニ帝國大使館ヲ新設ス

昭和十八年十月八日

法制局 宮内参事



内閣官房總務課

佐野理事官殿

「フイリピン」國ニ帝國大使館設置ニ關スル件參考資料トシテ別紙
記録ニ添附置相煩度候也

内閣

大日本帝國政府

昭和十八年十月六日午前九時半。於宮中全院委員會。

（政府側、總理、外務、大東亞各大臣、法制局長官、原議長、鈴木委員長以下出席。法制局主査參事官手記。）

○委員長。今日ハ陛下ノ御都合ガアルノデ午前十一時迄ニ委員會ヲ終ツテ引續キ本會議ヲ開催シタイト思フ。

○總理説明要旨。先ヅ今日迄ノ政府ノ施策ニ付一應申上ゲル。比島ハ米西戰爭當時一時獨立シタノデアアルガ米國ニ依テ武力ヲ以テ征服セラレ其ノ領土ト爲ツタガ爾后終始獨立ヲ目指シテ努力シテ參リ大正五年ニハ比島自治法ヲ獲得シ昭和十年ニハ憲法ヲ制定シテ聯邦自治制ヲ布キ昭和二十年ニハ一應獨立ヲ認メラルル豫定ト爲ツタノデアアル。倭皇軍ハ昭和十七年一月三日マニラニ入城シバルガスマニラ特別市長ヲ中心ニシテ行政委員會ヲ組織セシメタ。而シテ帝國政府ハ統帥部ト密接ナル連繫ノ下ニ勅裁ヲ仰イデ獨立ヲ許容スル旨ヲ定メタ。後本年一月議會ニ於テ

大日本帝國政府

申ネテ此ノ旨ヲ聲明シタガ又更ニ進ンデ六月末具體的方策ニ付テ御決定ヲ仰イデ獨立準備委員會ヲ作ラシメ帝國ノ意圖ノ大體ヲ示達シテ置イタ。此ノ委員會ハラウレルヲ首班トシ九月三日憲法草案ヲ決定シ之ニ基キ國民議會議員ノ選舉ヲ行ヒ大統領タルベキモノヲ選舉シタ。次デ九月三十日ラウレル、アキノ、バルガスノ三名ガ來朝シタノデ本大臣ヨリ日本ノ希望ヲ示達シタ。而シテラウレル以下之ヲ諒承シテ十月五日ニマニラニ歸着シタ。而シテ十月十四日ニハ村田特派大使ガ條約ヲ署名調印シテ直ニ批准ヲ仰グ心算デアル。ソノ署名調印ニ依テ帝國ハ比國承認スルコトト爲ル。是ガ大體ノ經過デアル。

○大東亞大臣説明。(大體上奏案ノ説明ニ同ジ)

○外務大臣説明。先ニ總理カラ申上ゲタ如ク帝國政府ノ意圖ハ十月一日ニ東京デラウレル外二名ニ示達サレタガ夫ニ基イテ比國トノ間ニ條約ヲ締結スル積デアルガ其ノ内容ニ付テ御參考迄ニ

大日本帝國政府

申上ゲル。(下略)尙軍事協定ニ付テ附屬文書ヲ作ル。

○石井・別ニ質問ハナイガ只一ツ比國ガ何時カラ成立スルカソノ手續ヲ聞キタイ。今月ノ十四日ニ比國ガ獨立スルト思フガ村田大使ハ今ハ出張ヲ仰付承認後ニ條約ヲムスブトイフノデアアルガ條約ヲ結ブコトガ承認ニ爲ルカ別ニ承認ノ手續ガアルノカ、ソレヲ結ブノハ駐劄大使カ、ソノ後デ駐劄大使ニナルノカ。

○安東条約局長向フノ獨立ハ宣言デ完成シ我方ノ承認ハ此ノ條約デ行ハレルガ法律上嚴格ニハ條約締結ノ爲ニ全權委任狀ヲ示ス時ニ始ツテ條約締結ニ依テ完成サルノデアアル。ソノ承認ト同時ニ村田大使ハ比國駐劄大使ニ成ルノデアアル。

○窪田・比島ノ憲法ハヨク見ル違ガナイガ或ル條項ハ獨立前ニ一應効力ガ發生シテ獨立後更ニ全般的ニ効力ガ確定スルヤニ見タガ然ウデアアルカ。第十一條第九節ニハ一定ノ條項ヲ除クノ外憲法ハ獨立迄効力ヲ生ゼズト規定シテアルガ是ハ十月十四日ノ獨

大日本帝國政府

立ト共ニ憲法ガ全面的ニ行ハルルコトニ爲ルト言フノデアアルカ。

○大東亞大臣・全ク仰ノ通りデアアル。第十一條第九節ノ關係デハ

本章ニ特ニ掲ゲラレタ事柄ハ獨立後遡及的ニ效力ヲ生ジナイト
不都合ヲ生ズルノデ擬制的ニ然ウナツテ居ルノデアアル。比島側
ハ九月十三日選舉法ヲ公布シ二十日ニ選舉ヲ行ツタガ新國家ノ
成立后ノ時期ニ爲ツテモソノ選舉ノ效果ハ依然認メラルルノデ
アル。

○窪田・次ニ第八條第一項ニ規定サレテ居ル資源ノ**擁護**ニ關スル
コトニ付テ伺ヒ度イ。此ノ關係ノコトハ今直グナラバ兎モ角後
ニ爲レバ茲ニ書イテアル通りニシカ成ラマ譯デアアル。サスレバ
米國人モ日本人モ一祝同仕ニ爲ツテ了フ。所ガ從來米國人ハ向
フデ働イテ居ルカラ色々ナ利權ヲ持ツテ居リ、其ノ結果ハ米國
人ノ受^ル取扱ノ方ガ厚ク保護サルル。而モ又他面本法施行ノ
際ノ利權ハ現状ノ儘之ヲ認メルト云フ條項ガ別ニアルカラ言

大日本帝國政府

ヒ換ヘレバ米國人ノミガ保護ヲ受ケルコトニナル。次ニミンダ
ナオ方方面デハ日本人ハ發展シテ土地ナドモ持ツテ居タト聞ク
ガソレハソノ儘認メラルルカ、現状ハ如何。

○大東亞大臣。コレハ舊比國憲法時代デモ問題ニ爲ツタ條項デア
ル。見様ニヨツテハ外國ノ企業ヲ極度ニ困難ナラシメル條項デア
アツテ我方ニハ都合ガ悪イ。シカシ之ヲ今マクト日本ハ名目ノ
ミノ獨立ヲ與ヘテ其ノ實自分ノ好キナ様ニスルト云フ印象ヲ與
ヘルコトニ爲リ敵側ノ宣傳モ正ニ之ヲ利用スルコトト爲ルノデ
避ケネバナラマ。又米國人ガ現ニ持ツテ居ル利權ノ方ガ大キク
テ而モ夫レガ經過規定デ其ノ儘認メラルルコトニ爲ラウトイハ
レル。シカシコレハ敵産トシテ現ニ我軍ガ管理シテ居今リ后既得權
トシテハ認メラレテ居ナイ。之ヲ如何ニ處理スルカハ比國ト我
國トノ交渉ニ依ツテ定マルノデ之ヲ既得權トシテ保護スル意思
ハ毛頭ナイ。尙第十一章ノ第七節デ本憲法ノ禁止及制限ニ拘ラ

大日本帝國政府

ズ戰爭中ハ大統領ハ此等ノ點ニ關シテ外國ト交渉スルコトヲ得ルトアルカラ戰時中ノ我方ノ利權ハ充分ニ保護セラレルシ又ミランダナオ等ノ邦人ノ利權ハ先刻御質問ノ既得權保護ノ條項テ充分守ラレル筈ト心得ルノデアアル。

○窪田。戰后ト爲レバヤハリ古イ利權ヲミトメルト言フ傾向ニ爲ルト思フ。殊ニ今日ノ比島ノ有力ナ人ハ米國ノ教育ヲ受ケ米國側ノ國際法ノ理念ヲ服膺スルト思フノデ此ノ點ハヨク注意シテ貰ヒタイ。

○大東亞大臣。御言葉ノ點ハヨク判ツテ居ル。ソノ點ハ今后ノ戰果ガ充分ニ我國ニ有利ト爲ルヤ否ヤニ特ニ左右セラレルコトヲ申添ヘテ置ク。

○清水。今春頃ジャバガ一等治安ガヨクテ比島ガ一等惡イト聞イタガ今ハ如何。又比島ニハ現在軍隊ガナイト思フガ治安ハ依然皇軍ガ之ヲ維持スルコトト爲ルカ。モ一點ハ法制局長官ニ伺ヒ

大日本帝國政府

度イガ此ノ憲法ハ我國ニトツテ差支ニナル點ハナイカ。ソレガナケレバヨイト思フノデアルガ、、、、。

○總理。

南方地區ノ中デ比島ガ一番治安ガ悪イノデハナイカトノ

御質問ニ對シテハ比島ノ地區ガ依然一番悪イト御答ヘスル外ナイ。比島ハ數々ノ島ガ多クテ中々隅々迄ハ目ガ届カナイ。又作戦上ハ殘存匪、即チ逃ゲタ者ガ其ノ數多ノ島ニヒソミ、又戡定ニ當ツテ逃ゲタ敵ノ數モ比島ニ於テハ多カッタノデアリ、更ニ比島ハ米國ノ治下ニ何十年在ツテ其ノ勢力ガ行キ亘ツテ居ル。軍トシテハ治安ノ確保、軍政ノ滲透ニツトメ又宣傳工作モ折角努力シテ居ル。サリ乍ラ獨立ヲ認メル帝國ノ態度、之ヲ契機トシテ比島側ノ要人が各郷里ニ歸ツテ行ツテ帝國ノ態度ヲ賞揚スルコトモ相當效果ガアルト思フ。ソノタメニ最近ハ歸順モ多クナリ、^(其中ニ)舊米兵、米將校ノ敗殘匪ノ頭目ガ最近ハ頗ル多ク爲ツタコトハ看過デキナイノデアル。次ニ軍隊ハ比島側ハ今ハ持ツテ

大日本帝國政府

居ラヌシ又當分ハ持つ方向ニハ進ンデ居ラナイ。尤モ將來ハ比國軍ハ生成セシムル方向ニ我方カラ進メネバナラヌト思フ。差當リ今日ハ四萬ノ比島警察隊ガアルカラソレニ力ヲ入レテ行キタイト思ツテ居ル。

○大東亞大臣。コノ憲法デ差支ナイカトノ點ハ現地軍ト中央トテ相談シテ差支ナシトノ結論ニ達シタノデアアル。

○總理。憲法ニ付テハ法理的ニハ不滿ノ點ガ多々アル。シカシ乍ラ今マデニ米國時代ニ既定ノ憲法案ガアツテソノ扱方ハ仲々考慮ヲ要スル點ガ多イノデアアル。舊憲法ヲ改造シテ日本的ニ、言換ヘレバ日本ニ都合ノヨイ様ニスルトイフナラバコレモ一ツノ見方デアリ又逆ニ、先程申シタ敵側宣傳ニ乗ゼラレヌ様餘リニ舊案ヲ變フベカラズトイフナラバ是モ見解デアアル。儲スベテチ戰爭ニ捧ゲツクスコトガ今日トシテハ大事デアアル。其ノ爲ニハ人心ヲツカマネバナラヌ、ソコデ日本的、即日本ニ都合ノヨイ

大日本帝國政府

様ニ改造スルトナレバコレハ人心收攬カラハ逆ノ行キ方ニナル。
ソコデ人心把握カラ見レバソコハ大キク一ツ吞ンデ過去ノ憲法
ガアルノダカラソレチ土臺ニシテ戦争ニドウシテモ差支アル點
ノミハ最少限度直々ノデアアル。カ、ル措置ヲ採レバ米英ノ宣傳
ニハ乗ゼラレズニ飽迄モ自分等ノ作ツタ憲法ト見サセル方法ヲ
採ルコトト爲ルノデアアル。

○清水。公用語ハ何デアアルカ。

○大東亞大臣。タガログ語ガ公用語デアアルガ大體ハ英語デ濟マス。
畢意兩方ガ大體公用語ト謂ツテ宜シイト思フ。

(此ノ間「日本語ハ」ト原議長自席デ總理ニ聞ク)

○南。總理ハ六月頃比島ニ付テ國民ノ意識ニ於テ且又我國ニ對ス
ル協力ニ付テ真ニ見ルベキモノガアルカラ本年中ニ比島ヲ獨立
サセルト云ハレタガ共ニ如何ナル點カ。載イタ資料デハ種族ハ
四十余、言語ハ六十。而シテ十歳以上デ文字ヲ解シ得ル者ガ四

大日本帝國政府

○%トアル・カカル者共ニ如何ニシテ國民意識ガアルカ。獨立運動トイフガ或ハ一部分ノミノ部落ノ意識位ニ止マルモノデハナカラウカ。

○總理・先ヅ獨立意識、是ハ米國ガ獨立ヲ許シタメガ、比國ガ國民意識ヲ現實ニ持ツテ居ルト云フ證據ニナリ、又「獨立」ノ問題ト爲ラバ如何ニ人民ガ興味ヲ持ツカハ隨所ニ表ハレテ居ル。ソレカラ協力、コレハ日本ガワヅカニ二個師團ノ兵力デ何十萬ノ米軍ヲ破ツテ兎モ角比島ヲ戡定シタ事實ヲ考ヘルトキハ人民トシテノ比島住民ノ妨害ナカリシコトが大ナル原因ニ爲ルノデアル。又バルガスガ長官、委員長トシテ治安ハワルイガ兎モ角今日迄島内ヲ治メテ行ツテ居ル事實モ一ノ證據ト言ヘヨウ。シカシ帝國ノ視ヒハコンナ所ニハナイ。コノ點ハ考ヘ方デ、何時迄タツテモ國民意識ナリ又協力ナリガ完全ニ爲ル時代ハ來ナイトモ云ヘル。ソレデ寧ロ政治的ニ扱ツテ兩者共ニ現ニ見ルベキモ

大日本帝國政府

ノ事リト云フコトニシタノデアアル。戦争ハ今年末年内ニ終度イト考ヘンデ
其ノ爲ノ方策デアアル。實ハ腹ノ底ニテハ獨立ノ價值ハ無イカモ知
レマト考ヘテ居ル。シカシ乍ラ獨立ノ價值充分ナリト云フコト
ニ表面ハ致シテ獨立國ニスルノダトイフ、是ガ政治ノ妙味デア
ルト考ヘル。

○南。獨立ハ實際ハ早過ギルノダラウカモ知レナイガ政治上ハ尤
ナ措置デアルト思フ。併シ獨立意識ガ旺盛ダト謂フノガドウモ
合點ガ行カマ。獨立運動ニ立ツタノハ主トシテタガログト思フ
ガ其ノ實情ハ如何。

○大東亞大臣。タガログハルソンノ中央ニ居リ文化的ニモ進ンデ
居ルカラ是ガリードシテ居ルト云ヒ得ルト思フ。

○南。ラウレルハケソンノ下デハ何チシテ居タカ、其ノ種族ト其
ノ受ケタ教育ハ如何。

○大東亞大臣。バタアシノ出身デアリ、エール、東京ノ兩大學カラ

大日本帝國政府

學位ヲ貰ツテ居ル・ケソソノ下デハ内務部ノ次長、又後ニハ内務大臣モシテ居タシ上院議員モ爲ツタコトガアル・シカシ主トシテ民間デ辯護士ヲシテ居タ期間ノ方ガ長イ・

○南・ (既得權條項ハ遺憾ナキヤヲ更ニ問フ・)

○大東亞大臣・ 我々トシテハ大体戦后ノコトハ戦后ニ協議シタイ。戦争中ハ兎モ角現状ヲミトメサセテ又一時ノ便法ヲ以テ賄ヲ附ケテ我方ニ協力サセテ人望ヲ繋イデ行キタイ・戦后ハ戦争中トハ態度ハ違ツテヨイノデアルカラ其ノ際確固タル態度デ交渉スルコトトシタイト思フ・

○南・ 米國ハ比國ノ獨立チ一番早ク認メルダラウトノ説ガアルガ如何・

○外務大臣・ アメリカハケソソガ現在米國ニ居ルカラソレヲ捉ヘテ獨立サセルトイフ風評ガアル・然シソレトハ本件トハ關係ガナイ・

大日本帝國政府

12

(副議長、「時間モ迫ルノデ簡單ニ」ト注意シ菅原憤然トスル。)

○菅原。今日中ニ審議ヲ了ラネバナラマ理由ハナカラウ。是ダケ

ノ大問題ヲ一時間カ二時間デ片付ケルコトハ出來マイト思フ。

明日、明後日ニ分ケテモヨカラウ。

○委員長。今日ハ御前ノ都合ガドウシテモ十一時四十分迄ニ本會

議ヲ終ヘネバナラマカラ急イデ頂度イト云フノデアル。貴君ノ

言ハレル様デアレバ今日ノ會議ハ止メルコトニ爲ルノカ。

○菅原。サウハ成ラマト思フガソレナラ止メル(着座スル、同時ニ

副議長、構ハズ次順位ヲ指名スル。)

○潮。比國軍ハ直ニニ作ラマカ。學生ノ對日感情ハ好(轉)シテ居ル

ノカ、説明書中ニハ宗教トシテ神道トアルガ日本ノ神道デアル

カ、是ニ對スル我方ノ施策ハ如何ニ考ヘテ居ルカ。

○總理。比島側ハ自ラハ軍隊ヲ作ル意思ハ差當リ有シナイ。對日

感情ハ逐次(好轉)シテ居ルト言ヒ得ルトハ思フガ實チ申スト是ハ灰色

大日本帝國政府

デアツテ今次戦争ノ戦果ニ左右サルル所が大キイ。次ニ宗教ハ日本ノモノヲオシツケルツモリハナイ。

○大東亞大臣・神道トアルノハ日本ノ十三神道ヲ云フノデハナクテ比島獨特ノ神ヲ祭ル宗教ナノデアアル。

○二上・今回ハビルマノ時ノ條約ノ文言トハ異リ署名調印デナク批准デ效力ヲ發生スルコトニ爲ツテ居ルガ其ノ差異ヲ設ケタ理由ハ如何ナル點ニ在ルカ。

○安東條約局長・比島ノ憲法デ大統領ハ議會ノ協贊ヲ經テ條約ヲ締結スルトアルノデ其處ニ違ガアルノデアアル。

○二上・スルト日本ノ都合デハナク比島ノ都合ニ依ルモノデアアルト云フ譯デスナ。ソレカラビルマノ條約ニハ獨立后一定ノ時日ヲ經レバ日本ノ行政ヲ廢止スルトアツタガ比國トノ條約ノ中ニモ此ノ文句ハアルカ。次ニソノトキニハ司政長官、司政官ハ如何ニナルカ、向フ側ノ顧問ニ爲ルカ又ハコチラニ歸還スルコト

大日本帝國政府

ト爲ルカ。

○總理。十月十四日ニハ軍政ハ全ク終止スル。御話ノ司政長官、司政官ハ其ノ際仕事ハ無クナル。其ノ措置ヲ如何ニスルカハ大東亞地域内ノ狀勢カチ一般のニ考ヘテ見テ追テ決定致ス積デア
ル。

○安東條約局長。ビルマトノ同盟條約ニモ軍政終止ノ事ハ規定シテ無イ。夫レハ領土ノ條約ノ中ニアルノデアアル。

○二上。比國憲法ハ充分ニアメリカ思想ガ盛り上ツテ居ル。ソレハ總理ノ言ハルル如ク止ムヲ得ナイト思フ。只一ツ彼ノフイリ
ビ
ン
ナ
ル
國
號
ニ
付
テ
ハ
日
本
式
ノ
モ
ノ
ヲ
定
メ
ル
ノ
デ
ハ
工
合
ガ
惡
カ
イ
ラ
ウ
ガ
米
國
色
デ
ア
ル
コ
ト
ハ
困
ル
ト
謂
フ
論
ガ
隨
分
ア
ル。
日
本
デ
定
メ
テ
押
シ
ツ
ケ
ル
コ
ト
ハ
イ
カ
マ
ガ
向
フ
側
ニ
於
テ
何
カ
別
案
デ
モ
樹
チ
得
タ
モ
ノ
デ
ハ
ナ
カ
ラ
ウ
カ。
政
府
ハ
研
究
サ
レ
タ
カ。

○大東亞大臣。其ノ點ハ研究シタコトモアルガ比島人ハ譯モ判ラ

大日本帝國政府

ズニ只自分等ノ所ハ「フィリピン」ト呼ブモノダト確信シテ居ルカラ
敢テ問題ニシテ居ラナイノデアル。

○二上・ 國號ハ「フィリピン」トアツテ「ツ」ノナイノガ御諮詢
案件デアル。而モ參考資料トシテ頂イタ書キ物ノ中ニハ「フィ
リツピン」トアツテ「ツ」ガアル。米國人ヤ比島人ハ「ツ」ハ
入レナイ。是ハ統一ナサル必要ガアルト思フガ如何カ。

○安東條約局長・ 御諮詢案ノ方ガ正シイノデ將來ハソノ様ニスル
積デアアル。

○小幡・ 外務大臣ニ伺度イ。日本ハビルマチ解放シ獨立ヲ與ヘ又
不當ニ失ハレタ領土ヲ回復セシメタ。最后ニ今回比島ヲ獨立セ
シメル。所デコレハ一貫シタ外交攻勢トモ云フベキコトデア
ト思フ。コレガ敵國又ハ中立國ニイカナル影響ヲ與ヘテ居ルカ
ガ伺ヒ度イ。考ヘ様デハ敵側ノ戰意ニ重大ナ影響ガアルト思フ
ガ、、、、。

大日本帝國政府

○外務大臣。今日ハ對支新政策ヲ推進シツ、アルガ之ヲ大東亞全體ニ押シ及ボシタノガ先般來ノ對ビルマ政策、對比島政策ヲ御話ノ如ク一聯ノ政策ト爲ルデアアル。コレハ固ヨリ我建國以來ノ理想ヲ具現シテ居ルノデ大東亞ノ民族ヲシテ多年ノ要望ヲ遂ゲシメテ歐米ノ桎梏カラ離脱セシメテ居ルノデアアル。之デ帝國トシテハ大體二ツノ目的ヲ遂ゲルノデアアル。第一ニ斯クシテ初メテ大東亞内ノ民族ガ決心シテ衷心カラ協力スルコトト爲ル。第二ニ更ニ大キイ目的ハ斯カル立派ナ政策ヲ遂行スルコトニ依テ日本ノ今回ノ戰爭ノ意義ガヨク分ルノデアアル。カクテ敵ノ戰意ハ薄ラゴトト爲ルノデアアル。又ソレヲ視ツテ居ルノデアアル。ソノ影響ハ支那ニ在ツテハ支那ノ民心ガ益々日本ニ傾キツ、アリト謂フ點デアアル。重慶ニ於テモ抗戰名目ヲ亡クシタトイフノデ和平氣分ガ濃厚ニ爲ツテ來テ居ルコトハ爭ハレナイ。世界各方面ニモ反響ハ強イ。日本ノ此ノ政策ハ同盟國方面デモ參考ニシテ

大日本帝國政府

居リ、敵國側デハ殊ニ英國デ印度ノ獨立運動ニ付テノ考ニ餘程
大キク響イテ居ル様デアル。米國デハ日本ノ政策ニ非常ニ注意
ヲ拂ツテアメリカノ戰爭目的ニ餘程ノ疑惑ヲ生ジテ來タヤウデ
アル。

○委員長質問打切ヲ宣ス。午前十一時十分。

内
閣

角 No.3

極

祐

二
#



日本國「フィリピン」國間同盟條約御批
准ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十八年十月二十日

内閣總理大臣東條英機



外印第四九號

起 昭和十八年十月

閣議 昭和十八年十月二十日 施行
決定 昭和十八年十月二十日 行
裁可 昭和十八年十月二十日 行

昭和十八年十月二十日

指令

內閣總理大臣

內閣書記官長

內閣書記官

外務大臣

海軍大臣

商工大臣

大東亞大臣

內務大臣

司法大臣

遞信大臣

岸田首相

大藏大臣

文部大臣

鐵道大臣

陸軍大臣

農林大臣

厚生大臣

陸軍大臣

日本國「フィリピン」國間同盟條約御批准

日件 國間同盟新條約御批
右樞密院ノ御諮詢ヲ經テ御下付ニ
付同院上奏ノ通裁可ヲ奏請セラレ
然ルベシト認ム

指令案

日本國「フィリピン」國間同盟條約御批
准ノ件上奏ノ通裁可ヲ經タリ

千七百五十九

御覽濟

臣等日本國「フィリピン」國間同盟條約御批准ノ件諮詢ノ命ヲ恪ミ本月二十日ヲ以テ
審議ヲ盡シ之ヲ可決セリ乃チ謹テ上奏シ
更ニ

聖明ノ採擇ヲ仰ク

昭和十八年十月二十日

樞密院議長 臣

原 嘉道

御批准案

天祐ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル
大日本帝國天皇(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示
ス

朕昭和十八年十月十四日「マニラ」ニ於テ帝國全
權委員ガ「フィリピン」國全權委員ト共ニ署名
調印シタル日本國「フィリピン」國間同盟條約ヲ
閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千六百三年昭和十八年
十月二十日東京宮城ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽

日本國「フィリピン」國間同盟條約

大日本帝國天皇陛下及「フィリピン」共和國大統領ハ

日本國ガ「フィリピン」國ヲ獨立國家トシテ承認スルコトニ決シタルニ因リ

兩國相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ協力シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ確乎不動ノ決意ヲ以テ之ガ障害タル一切ノ禍根ヲ芟除センコトヲ欲シ之ガ爲同盟條約ヲ締結スルコトニ決シ左ノ如ク各其ノ全權委員ヲ任命セリ

大日本帝國天皇陛下

特命全權大使從三位村田省藏

「フィリピン」共和國大統領

國務大臣「クラロロ、エメ、レクト」

右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

締約國間ニハ相互ニ其ノ主權及領土ノ尊重ノ基礎ニ於テ永久ニ善隣友好ノ關係アルベシ

第二條

PACTE D'ALLIANCE ENTRE LE JAPON ET
LES PHILIPPINES

Sa Majesté l'Empereur du Japon et le Président de la République des Philippines,

Le Japon ayant décidé de reconnaître les Philippines comme un Etat indépendant ;

Désirant que les deux pays, en respectant mutuellement comme bons voisins leur indépendance autonome, établissent, en collaboration étroite, une Grande Asie Orientale basée sur la justice pour contribuer ainsi à la paix générale du monde, et désirant éliminer à fond, avec une volonté ferme et irréductible, toutes les mauvaises influences faisant obstacle à ce but, ont résolu de conclure un Pacte à cet effet, et ont nommé pour leurs Plénipotentiaires respectifs, savoir :

Sa Majesté l'Empereur du Japon :

Son Excellence Monsieur Shōzō Murata, Zyusanmi, Ambassadeur extraordinaire et plénipotentiaire ;

Le Président de la République des Philippines :

Son Excellence Monsieur Claro M. Recto, Ministre d'Etat ;

Lesquels, après s'être communiqué leurs pleins pouvoirs, trouvés en bonne et due forme, sont convenus des dispositions suivantes :

Article 1.

Il y aura à jamais les relations de bon voisinage et d'amitié

TERMES D'ENTENTE ANNEXÉS AU
PACTE D'ALLIANCE ENTRE LE
JAPON ET LES PHILIPPINES

AD. Article 2.

Il est entendu que la modalité principale de la collaboration étroite d'ordre militaire afin de poursuivre la guerre de la Grande Asie Orientale stipulée dans cet article sera comme suit :

Les Philippines donneront toutes les facilités pour les opérations militaires qu'entreprendra le Japon ; en outre, le Japon et les Philippines collaboreront, d'une façon mutuelle et étroite, pour sauvegarder l'intégrité territoriale et l'indépendance des Philippines.

En foi de quoi, les soussignés, dûment autorisés à cet effet par leurs Gouvernements respectifs, ont signé les présents Termes d'entente.

Fait en double exemplaire, à Manille, le quatorzième jour du dixième mois de la dix-huitième année de Syōwa, correspondant au 14 octobre 1943.

村田省藏
Claro M. Recto

En foi de quoi, les Plénipotentiaires respectifs ont signé le présent Pacte et y ont apposé leurs cachets.

Fait en double exemplaire, à Manille, le quatorzième jour du dixième mois de la dix-huitième année de Syōwa, correspondant au 14 octobre 1943.

村田省藏 (L. S.)

Claro M. Recto (L. S.)

entre les Hautes Parties Contractantes sur la base du respect mutuel de leur souveraineté et de leurs territoires.

Article 2.

Les Hautes Parties Contractantes s'assureront une collaboration étroite d'ordre politique, économique et militaire afin de poursuivre la guerre de la Grande Asie Orientale jusqu'à la victoire complète.

Article 3.

Les Hautes Parties Contractantes collaboreront, d'une façon mutuelle et étroite, pour la construction d'une Grande Asie Orientale.

Article 4.

Les détails nécessaires à l'exécution du présent Pacte seront déterminés entre les autorités compétentes des Hautes Parties Contractantes.

Article 5.

Le présent Pacte entrera en vigueur dès le jour de la ratification des Hautes Parties Contractantes.

Article 6.

Le présent Pacte sera ratifié le plus tôt possible. L'échange des instruments de ratification aura lieu le plus tôt possible à Manille.

PACTE D'ALLIANCE ENTRE LE JAPON ET
LES PHILIPPINES

Sa Majesté l'Empereur du Japon et le Président de la République des Philippines,

Le Japon ayant décidé de reconnaître les Philippines comme un Etat indépendant ;

Désirant que les deux pays, en respectant mutuellement comme bons voisins leur indépendance autonome, établissent, en collaboration étroite, une Grande Asie Orientale basée sur la justice pour contribuer ainsi à la paix générale du monde, et désirant éliminer à fond, avec une volonté ferme et irréductible, toutes les mauvaises influences faisant obstacle à ce but, ont résolu de conclure un Pacte à cet effet, et ont nommé pour leurs Plénipotentiaires respectifs, savoir :

Sa Majesté l'Empereur du Japon :

Son Excellence Monsieur Shōzō Murata, Zyusanmi, Ambassadeur extraordinaire et plénipotentiaire ;

Le Président de la République des Philippines :

Son Excellence Monsieur Claro M. Recto, Ministre d'Etat ;

Lesquels, après s'être communiqué leurs pleins pouvoirs, trouvés en bonne et due forme, sont convenus des dispositions suivantes :

Article 1.

Il y aura à jamais les relations de bon voisinage et d'amitié

外甲四九

御覽見濟内閣へ御下付

昭和十八年十月十四日

昭和十八年十月十四日

内閣書記官長

送

内閣書記官

内閣書記官

内閣總理大臣



法制局長官



外務大臣

林

海軍大臣

五

商工大臣

大東亞大臣

表

内務大臣

為

司法大臣

五

逓信大臣

五

岸 國務大臣

西

大藏大臣

興

文部大臣

五

鐵道大臣

五

大 國務大臣

五

陸軍大臣



農林大臣

五

厚生大臣

五

後藤 國務大臣



別紙外務大臣請議日本國、フィリピン、國
間同盟條約御批准奏請ノ件ヲ審査ス

法制局

ルニ右ハ請議ノ通御批准ヲ奏請セラレ
可然ト認ム
追テ本件ハ樞密院官制第六條第
六號ニ依リ樞密院ニ御諮詢相成可
然ト認ム

極秘

法制局

法制局外第ニ七號

昭和十八年十月十四日

條一極秘第四二三號

主任者、條約局第一課長

昭和十八年十月十四日

外務大臣 重光

內閣總理大臣 東條英機殿

日本國「フィリピン」國間同盟條約御批准
奏請ノ件

昭和十八年十月十四日「マニラ」ニ於テ帝國全權委員ト「フィリ
ピン」國全權委員トノ間ニ署名調印ヲ了シタル本件同盟條約御批
准ノ儀ニ關シ別紙ノ通上奏致候間可然御取計相成度此段及請議候
也



外甲四九

外務省

内閣
14
文

追テ右條約（附屬了解事項ヲ含ム）正文及譯文各五部添附致置
候

外
務
省

(日本標準規格B5)

IMT 676

56

昭和十八年十月十四日「マニラ」ニ於テ帝國全權委員ガ「フィリ
ピン」國全權委員ト共ニ署名調印シタル日本國「フィリピン」國
間同盟條約御批准相成様仕度別紙御批准書案相添へ此段謹テ奏ス

昭和十八年十月十四日

外務大臣 重光



外務省

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル
大日本帝國天皇（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕昭和十八年十月十四日「マニラ」ニ於テ帝國全權委員ガ「フィ
リピン」國全權委員ト共ニ署名調印シタル日本國「フィリピン」
國間同盟條約ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇卽位紀元二千六百三年昭和十八年 月 日
於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

外務大臣

外務省

日本國「フィリピン」國間同盟條約

大日本帝國天皇陛下及「フィリピン」共和國大統領ハ

日本國ガ「フィリピン」國ヲ獨立國家トシテ承認スルコトニ決シタルニ因リ

兩國相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ協力シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ確乎不動ノ決意ヲ以テ之ガ障害タル一切ノ禍根ヲ芟除センコトヲ欲シ之ガ爲同盟條約ヲ締結スルコトニ決シ左ノ如ク各其ノ全權委員ヲ任命セリ

大日本帝國天皇陛下

特命全權大使從三位村田省藏

「フィリピン」共和國大統領

國務大臣「クラローロ、エメ、レクト」

右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

締約國間ニハ相互ニ其ノ主權及領土ノ尊重ノ基礎ニ於テ永久ニ善隣友好ノ關係アルベシ

第二條

締約國ハ大東亞戰爭完遂ノ爲政治上、經濟上及軍事上緊密ナル協力ヲ爲スベシ

第三條

締約國ハ大東亞ノ建設ノ爲相互ニ緊密ニ協力スベシ

第四條

本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ締約國當該官憲間ニ協議決定セラルベシ

第五條

本條約ハ締約國ニ於テ其ノ批准ヲ了シタル日ヨリ實施セラルベシ

第六條

本條約ハ成ルベク速ニ批准セラルベシ批准書ノ交換ハ「マニラ」ニ於テ成ルベク速ニ行ハルベシ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名調印セリ

昭和十八年十月十四日即チ千九百四十三年十月十四日「マニラ」ニ於テ本書ニ通テ作成ス

村 田 省 藏(印)

クラート、エメ、レクト(印)

日本國「フィリピン」國間同盟條約附屬了解事項

條約第二條ニ付

同條ニ規定スル大東亞戰爭完遂ノ爲ノ軍事上ノ緊密ナル協力ノ主タル態様ハ左ノ通トス
「フィリピン」國ハ日本國ノ爲スベキ軍事行動ノ爲一切ノ便宜ヲ供與スベク又日本國及「フィリピン」國
ハ「フィリピン」國ノ領土及獨立ヲ防衛スル爲相互ニ緊密ニ協力スベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本了解事項ニ署名セリ

昭和十八年十月十四日即チ千九百四十三年十月十四日「マニラ」ニ於テ本書ニ通テ作成ス

村 田 省 藏

クラーク、エヌ、レクト

TERMES D'ENTENTE ANNEXÉS AU
PACTE D'ALLIANCE ENTRE LE
JAPON ET LES PHILIPPINES

AD. Article 2.

Il est entendu que la modalité principale de la collaboration étroite d'ordre militaire afin de poursuivre la guerre de la Grande Asie Orientale stipulée dans cet article sera comme suit :

Les Philippines donneront toutes les facilités pour les opérations militaires qu'entreprendra le Japon ; en outre, le Japon et les Philippines collaboreront, d'une façon mutuelle et étroite, pour sauvegarder l'intégrité territoriale et l'indépendance des Philippines.

En foi de quoi, les soussignés, dûment autorisés à cet effet par leurs Gouvernements respectifs, ont signé les présents Termes d'entente.

Fait en double exemplaire, à Manille, le quatorzième jour du dixième mois de la dix-huitième année de Syōwa, correspondant au 14 octobre 1943.

村田省藏
Claro M. Recto

En foi de quoi, les Plénipotentiaires respectifs ont signé le présent Pacte et y ont apposé leurs cachets.

Fait en double exemplaire, à Manille, le quatorzième jour du dixième mois de la dix-huitième année de Syōwa, correspondant au 14 octobre 1943.

村田省藏 (L. S.)

Claro M. Recto (L. S.)

entre les Hautes Parties Contractantes sur la base du respect mutuel de leur souveraineté et de leurs territoires.

Article 2.

Les Hautes Parties Contractantes s'assureront une collaboration étroite d'ordre politique, économique et militaire afin de poursuivre la guerre de la Grande Asie Orientale jusqu'à la victoire complète.

Article 3.

Les Hautes Parties Contractantes collaboreront, d'une façon mutuelle et étroite, pour la construction d'une Grande Asie Orientale.

Article 4.

Les détails nécessaires à l'exécution du présent Pacte seront déterminés entre les autorités compétentes des Hautes Parties Contractantes.

Article 5.

Le présent Pacte entrera en vigueur dès le jour de la ratification des Hautes Parties Contractantes.

Article 6.

Le présent Pacte sera ratifié le plus tôt possible. L'échange des instruments de ratification aura lieu le plus tôt possible à Manille.

PACTE D'ALLIANCE ENTRE LE JAPON ET
LES PHILIPPINES

Sa Majesté l'Empereur du Japon et le Président de la République des Philippines,

Le Japon ayant décidé de reconnaître les Philippines comme un Etat indépendant ;

Désirant que les deux pays, en respectant mutuellement comme bons voisins leur indépendance autonome, établissent, en collaboration étroite, une Grande Asie Orientale basée sur la justice pour contribuer ainsi à la paix générale du monde, et désirant éliminer à fond, avec une volonté ferme et irréductible, toutes les mauvaises influences faisant obstacle à ce but, ont résolu de conclure un Pacte à cet effet, et ont nommé pour leurs Plénipotentiaires respectifs, savoir :

Sa Majesté l'Empereur du Japon :

Son Excellence Monsieur Shōzō Murata, Zyusanmi, Ambassadeur extraordinaire et plénipotentiaire ;

Le Président de la République des Philippines :

Son Excellence Monsieur Claro M. Recto, Ministre d'Etat ;

Lesquels, après s'être communiqué leurs pleins pouvoirs, trouvés en bonne et due forme, sont convenus des dispositions suivantes :

Article 1.

Il y aura à jamais les relations de bon voisinage et d'amitié

日本國「フィリピン」國間同盟條約御批准ノ件
右別紙ノ通本院ニ於テ決議上奏候條此段
及通牒候也

昭和十八年十月二十日

樞密院議長原 嘉道

內閣總理大臣東條英機殿

臣等、日本國「フィリピン」國間同盟條約御批准ノ件
諮詢ノ命ヲ恪シ本月二十日ヲ以テ審議ヲ
盡シ之ヲ可決セリ乃チ謹テ上奏シ更ニ
聖明ノ採擇ヲ仰ク

昭和十八年十月二十日

樞密院議長臣原嘉道

181 184 187

御批准案

天祐ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐タル

大日本帝國天皇（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕昭和十八年十月十四日「マニラ」ニ於テ帝國全權委員ガ「フィリピン」國全權委員ト共ニ署名調印シタル日本國「フィリピン」

國間同盟條約ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千六百三年昭和十八年 月 日 ニ

於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名國璽

外務大臣

區

分

元

日本國「フィリピン」國間同盟條約

大日本帝國天皇陛下及「フィリピン」共和國大統領ハ

日本國ガ「フィリピン」國ヲ獨立國家トシテ承認スルコトニ決シタルニ因リ

兩國相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ協力シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ確乎不動ノ決意ヲ以テ之ガ障害タル一切ノ禍根ヲ芟除センコトヲ欲シ之ガ爲同盟條約ヲ締結スルコトニ決シ左ノ如ク各其ノ全權委員ヲ任命セリ

大日本帝國天皇陛下

特命全權大使從三位村田省藏

「フィリピン」共和國大統領

國務大臣「クラロー、エメ、レクト」

右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

締約國間ニハ相互ニ其ノ主權及領土ノ尊重ノ基礎ニ於テ永久ニ善隣友好ノ關係アルベシ

第二條

TERMES D'ENTENTE ANNEXÉS AU
PACTE D'ALLIANCE ENTRE LE
JAPON ET LES PHILIPPINES

AD. Article 2.

Il est entendu que la modalité principale de la collaboration étroite d'ordre militaire afin de poursuivre la guerre de la Grande Asie Orientale stipulée dans cet article sera comme suit :

Les Philippines donneront toutes les facilités pour les opérations militaires qu'entreprendra le Japon ; en outre, le Japon et les Philippines collaboreront, d'une façon mutuelle et étroite, pour sauvegarder l'intégrité territoriale et l'indépendance des Philippines.

En foi de quoi, les soussignés, dûment autorisés à cet effet par leurs Gouvernements respectifs, ont signé les présents Termes d'entente.

Fait en double exemplaire, à Manille, le quatorzième jour du dixième mois de la dix-huitième année de Syōwa, correspondant au 14 octobre 1943.

村田省藏
Claro M. Recto

En foi de quoi, les Plénipotentiaires respectifs ont signé le présent Pacte et y ont apposé leurs cachets.

Fait en double exemplaire, à Manille, le quatorzième jour du dixième mois de la dix-huitième année de Syōwa, correspondant au 14 octobre 1943.

村田省藏 (L. S.)

Claro M. Recto (L. S.)

entre les Hautes Parties Contractantes sur la base du respect mutuel de leur souveraineté et de leurs territoires.

Article 2.

Les Hautes Parties Contractantes s'assureront une collaboration étroite d'ordre politique, économique et militaire afin de poursuivre la guerre de la Grande Asie Orientale jusqu'à la victoire complète.

Article 3.

Les Hautes Parties Contractantes collaboreront, d'une façon mutuelle et étroite, pour la construction d'une Grande Asie Orientale.

Article 4.

Les détails nécessaires à l'exécution du présent Pacte seront déterminés entre les autorités compétentes des Hautes Parties Contractantes.

Article 5.

Le présent Pacte entrera en vigueur dès le jour de la ratification des Hautes Parties Contractantes.

Article 6.

Le présent Pacte sera ratifié le plus tôt possible. L'échange des instruments de ratification aura lieu le plus tôt possible à Manille.

PACTE D'ALLIANCE ENTRE LE JAPON ET
LES PHILIPPINES

Sa Majesté l'Empereur du Japon et le Président de la République des Philippines,

Le Japon ayant décidé de reconnaître les Philippines comme un Etat indépendant ;

Désirant que les deux pays, en respectant mutuellement comme bons voisins leur indépendance autonome, établissent, en collaboration étroite, une Grande Asie Orientale basée sur la justice pour contribuer ainsi à la paix générale du monde, et désirant éliminer à fond, avec une volonté ferme et irréductible, toutes les mauvaises influences faisant obstacle à ce but, ont résolu de conclure un Pacte à cet effet; et ont nommé pour leurs Plénipotentiaires respectifs, savoir :

Sa Majesté l'Empereur du Japon :

Son Excellence Monsieur Shōzō Murata, Zyusanmi, Ambassadeur extraordinaire et plénipotentiaire ;

Le Président de la République des Philippines :

Son Excellence Monsieur Claro M. Recto, Ministre d'Etat ;

Lesquels, après s'être communiqué leurs pleins pouvoirs, trouvés en bonne et due forme, sont convenus des dispositions suivantes :

Article 1.

Il y aura à jamais les relations de bon voisinage et d'amitié



秘

一日本國「フィリピン」國間同盟條約御批准ノ件
右件ニ付議長ヨリ審査委員長ニ鈴木副議長ヲ、審査
委員ニ顧問官全員ヲ指定セラレ候依命此段及御通
知候也

追テ議案 參照添附 及御配付候

尚来ル二十日(水曜日)午前九時半ヨリ宮中本院控
室ニ於テ本件總委員會開催右終了ノ上ハ引續キ
本會議可被相開候間此段申添候

昭和十八年十月十八日

後日添附

樞密院書記官

内閣總理大臣

秘

日本國「フィリピン」國間同盟條約御批准ノ件

参照添附

TMT 676

77

御批准案

天祐ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐スル

大日本帝國天皇（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕昭和十八年十月十四日「マニラ」ニ於テ帝國全權委員ガ「フィ

リピン」國全權委員ト共ニ署名調印シタル日本國「フィリピン」

國間同盟條約ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千六百三年昭和十八年 月 日

於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名國璽

外務大臣

極
秘

日本國「フィリピン」國間同盟條約

IMT 676

79

日本國「フィリピン」國間同盟條約

大日本帝國天皇陛下及「フィリピン」共和國大統領ハ

日本國ガ「フィリピン」國ヲ獨立國家トシテ承認スルコトニ決シタルニ因リ

兩國相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ協力シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ確乎不動ノ決意ヲ以テ之ガ障害タル一切ノ禍根ヲ芟除センコトヲ欲シ之ガ爲同盟條約ヲ締結スルコトニ決シ左ノ如ク各其ノ全權委員ヲ任命セリ

大日本帝國天皇陛下

特命全權大使從三位村田省藏

「フィリピン」共和國大統領

國務大臣「クラロ、エメ、レクト」

右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

締約國間ニハ相互ニ其ノ主權及領土ノ尊重ノ基礎ニ於テ永久ニ善隣友好ノ關係アルベシ

第二條

締約國ハ大東亞戰爭完遂ノ爲政治上、經濟上及軍事上緊密ナル協力ヲ爲スベシ

第三條

締約國ハ大東亞ノ建設ノ爲相互ニ緊密ニ協力スベシ

第四條

本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ締約國當該官憲間ニ協議決定セラルベシ

第五條

本條約ハ締約國ニ於テ其ノ批准ヲ了シタル日ヨリ實施セラルベシ

第六條

本條約ハ成ルベク速ニ批准セラルベシ批准書ノ交換ハ「マニラ」ニ於テ成ルベク速ニ行ハルベシ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名調印セリ

昭和十八年十月十四日即チ千九百四十三年十月十四日「マニラ」ニ於テ本書ニ通テ作成ス

村 田 省 藏(印)

クラーク、エメ、レクト(印)

日本國「フィリピン」國間同盟條約附屬了解事項

條約第二條ニ付

同條ニ規定スル大東亞戰爭完遂ノ爲ノ軍事上ノ緊密ナル協力ノ主タル態様ハ左ノ通トス

「フィリピン」國ハ日本國ノ爲スベキ軍事行動ノ爲一切ノ便宜ヲ供與スベク又日本國及「フィリピン」國
ハ「フィリピン」國ノ領土及獨立ヲ防衛スル爲相互ニ緊密ニ協カスベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本了解事項ニ署名セリ

昭和十八年十月十四日即チ千九百四十三年十月十四日「マニラ」ニ於テ本書ニ通ヲ作成ス

村 田 省 藏
クラーク、エメ、レクト

(昭和十八年十月十四日 印刷)

(昭和十八年十月十四日 印刷)

TERMES D'ENTENTE ANNEXÉS AU
PACTE D'ALLIANCE ENTRE LE
JAPON ET LES PHILIPPINES

AD. Article 2.

Il est entendu que la modalité principale de la collaboration étroite d'ordre militaire afin de poursuivre la guerre de la Grande Asie Orientale stipulée dans cet article sera comme suit :

Les Philippines donneront toutes les facilités pour les opérations militaires qu'entreprendra le Japon ; en outre, le Japon et les Philippines collaboreront, d'une façon mutuelle et étroite, pour sauvegarder l'intégrité territoriale et l'indépendance des Philippines.

En foi de quoi, les soussignés, dûment autorisés à cet effet par leurs Gouvernements respectifs, ont signé les présents Termes d'entente.

Fait en double exemplaire, à Manille, le quatorzième jour du dixième mois de la dix-huitième année de Syōwa, correspondant au 14 octobre 1943.

村田省藏
Claro M. Recto

En foi de quoi, les Plénipotentiaires respectifs ont signé le présent Pacte et y ont apposé leurs cachets.

Fait en double exemplaire, à Manille, le quatorzième jour du dixième mois de la dix-huitième année de Syōwa, correspondant au 14 octobre 1943.

村田省藏 (L. S.)
Claro M. Recto (L. S.)

entre les Hautes Parties Contractantes sur la base du respect mutuel de leur souveraineté et de leurs territoires.

Article 2.

Les Hautes Parties Contractantes s'assureront une collaboration étroite d'ordre politique, économique et militaire afin de poursuivre la guerre de la Grande Asie Orientale jusqu'à la victoire complète.

Article 3.

Les Hautes Parties Contractantes collaboreront, d'une façon mutuelle et étroite, pour la construction d'une Grande Asie Orientale.

Article 4.

Les détails nécessaires à l'exécution du présent Pacte seront déterminés entre les autorités compétentes des Hautes Parties Contractantes.

Article 5.

Le présent Pacte entrera en vigueur dès le jour de la ratification des Hautes Parties Contractantes.

Article 6.

Le présent Pacte sera ratifié le plus tôt possible. L'échange des instruments de ratification aura lieu le plus tôt possible à Manille.

PACTE D'ALLIANCE ENTRE LE JAPON ET
LES PHILIPPINES

Sa Majesté l'Empereur du Japon et le Président de la République des Philippines,

Le Japon ayant décidé de reconnaître les Philippines comme un Etat indépendant ;

Désirant que les deux pays, en respectant mutuellement comme bons voisins leur indépendance autonome, établissent, en collaboration étroite, une Grande Asie Orientale basée sur la justice pour contribuer ainsi à la paix générale du monde, et désirant éliminer à fond, avec une volonté ferme et irréductible, toutes les mauvaises influences faisant obstacle à ce but, ont résolu de conclure un Pacte à cet effet, et ont nommé pour leurs Plénipotentiaires respectifs, savoir :

Sa Majesté l'Empereur du Japon :

Son Excellence Monsieur Shōzō Murata, Zyusanmi, Ambassadeur extraordinaire et plénipotentiaire ;

Le Président de la République des Philippines :

Son Excellence Monsieur Claro M. Recto, Ministre d'Etat ;

Lesquels, après s'être communiqué leurs pleins pouvoirs, trouvés en bonne et due forme, sont convenus des dispositions suivantes :

Article 1.

Il y aura à jamais les relations de bon voisinage et d'amitié

極
秘

PACTE D'ALLIANCE ENTRE LE JAPON
ET LES PHILIPPINES

參照

昭和十八年十月

日本國「フィリピン」國間同盟條約說明書

極秘

外務省條約局

目次

第一章 本條約締結ノ經緯.....	一頁
第二章 本條約及附屬了解事項ノ逐條說明.....	一
第一部 本條約.....	二
第二部 附屬了解事項.....	三

第一章 本條約締結ノ経緯

曩ニ帝國政府ハ萬邦ヲシテ各其ノ所ヲ得シムルノ帝國肇國ノ精神ニ基キ「フィリピン」ニ對シ獨立ヲ許容スルノ方針ヲ決シ昭和十七年一月二十一日帝國議會ニ於テ東條内閣總理大臣ハ比島ニ關シテハ將來同島ノ民衆ニシテ帝國ノ眞意ヲ了解シ大東亞共榮圈建設ノ一翼トシテ協力シ來ル場合ニハ帝國ハ欣然トシテ彼等ニ獨立ノ榮譽ヲ與ヘントスルモノナル旨ヲ聲明シ次デ本年一月再ビ帝國議會ニ於テ東條内閣總理大臣ハ「フィリピン」ガ更ニ積極的ナル協力ヲ重ネ其ノ獨立ガ成ルベク速ナル時期ニ於テ實現セシコトヲ衷心ヨリ期待スルモノナル旨ヲ聲明スル所アリタリ本年六月比島獨立ノ具體的方針ニ付御決定ヲ仰ギ現地軍司令官指導ノ下ニ比島獨立準備委員會ヲ編成セシメ同委員會幹部ニ對シ新國家創成ニ關スル帝國ノ意嚮ヲ示達セシメ爾來同委員會ニ於テハ獨立ニ關スル諸般ノ準備ヲ進メ來レリ政府ハ比島國民議會ニ於テ大統領タルベキ者トシテ選舉セラレタル「ラウレル」獨立準備委員長等ヲ九月三十日東京ニ招請シ東條内閣總理大臣ヨリ更メテ比島獨立ニ關スル帝國ノ所信ヲ示達シタルガ十月十四日帝國ハ比島ノ軍政ヲ撤廢シ即日「フィリピン」國ハ獨立ヲ宣言シ次デ村田特命全權大使ハ「フィリピン」國全權委員ト會同商議シ日本國「フィリピン」國間同盟條約ヲ締結シ之ニ署名調印ヲ了シタリ

第二章 本條約及附屬了解事項ノ逐條説明

本條約ハ條約及附屬了解事項ノ二部ヨリ成ル

第一部 本條約

前文

前文ニ於テハ大日本帝國天皇陛下及「フィリピン」共和國大統領ハ日本國ガ「フィリピン」國ヲ獨立國家トシテ承認スルコトニ決シタルニ因リ兩國相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ協力シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ確乎不動ノ決意ヲ以テ之ガ障害タル一切ノ禍根ヲ芟除センコトヲ欲シ之ガ爲同盟條約ヲ締結スルコトニ決シ各其ノ全權委員ヲ任命シタル旨及右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後本條約ヲ協定セル旨ヲ述ブ

第一條

第一條ニ於テハ締約國間ニハ相互ニ其ノ主權及領土ノ尊重ノ基礎ニ於テ永久ニ善隣友好ノ關係アルベキ旨ヲ定ム

第二條

第二條ニ於テハ締約國ハ大東亞戰爭完遂ノ爲政治上、經濟上及軍事上緊密ナル協力ヲ爲スベキ旨ヲ定ム

第三條

第三條ニ於テハ締約國ハ大東亞ノ建設ノ爲相互ニ緊密ニ協力スベキ旨ヲ定ム

第四條

第四條ニ於テハ本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ締約國當該官憲間ニ協議決定セラルベキ旨ヲ定ム

第五條

第五條ニ於テハ本條約ハ締約國ニ於テ其ノ批准ヲ了シタル日ヨリ實施セラルベキ旨ヲ定ム

第六條

第六條ニ於テハ本條約ハ成ルベク速ニ批准セラルベク且批准書ノ交換ハ「マニラ」ニ於テ成ルベク速ニ行ハルベキ旨ヲ定ム

末文

末文ニ於テハ右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名調印シタル旨竝ニ昭和十八年十月十四日即チ千九百四十三年十月十四日「マニラ」ニ於テ本書ニ通テ作成セル旨ヲ述ブ

第二部 附屬了解事項

附屬了解事項ニ於テハ條約第二條ニ付同條ニ規定スル大東亞戰爭完遂ノ爲ノ軍事上ノ緊密ナル協力ノ

三

主タル態様ハ左ノ通ナルベキ旨ヲ定ム

「フィリピン」國ハ日本國ノ爲スベキ軍事行動ノ爲一切ノ便宜ヲ供與スベク又日本國及「フィリピン」國
ハ「フィリピン」國ノ領土及獨立ヲ防衛スル爲相互ニ緊密ニ協力スベシ

尙了解事項末文ニ於テハ右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本了解事項ニ署名セル
旨竝ニ昭和十八年十月十四日即チ千九百四十三年十月十四日「マニラ」ニ於テ本書ニ通テ作成セル旨ヲ
述ブ

四

條約集

第二十一輯
第三十一卷

(673)

外務省條約局

昭和十八年九月二十八日編纂

「フィリピン」共和國憲法（一九四三年）